

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：27504

学校名：手稲鉄北小学校

| 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果 | | 分析 | |
|---------------------------|--|---|--|
| 体力・運動能力 <男子> | <p>□反復横跳び(俊敏性)、50m走(筋力)、立ち幅跳び(瞬発力)、ソフトボール投げ(筋力) →全国平均より上回っている。</p> <p>□長座体前屈(柔軟性)、20mシャトルラン(持久力)→全国平均よりやや上回っている。</p> <p>□握力(筋力)、上体起こし(筋力) →全国平均より下回っている。</p> | <p>昨年度と比較すると、立ち幅跳びと長座体前屈の瞬発力と柔軟性が向上しており、グラウンドや体育館における休み時間の取組の成果と考えられる。一方で、握力と上体起こしに課題が見られる。筋力の向上につながる活動を学校で取り組む必要がある。</p> | |
| 体力・運動能力 <女子> | <p>□長座体前屈(柔軟性)、反復横跳び(俊敏性)、50m走(筋力)、立ち幅跳び(瞬発力) →全国平均より上回っている。</p> <p>□握力(筋力) →全国平均よりやや上回っている。</p> <p>□20mシャトルラン(持久力) →全国平均より下回っている。</p> <p>□上体起こし(筋力)、ソフトボール投げ(筋力) →全国平均よりやや下回っている。</p> | <p>昨年度と比較すると、50m走の筋力と立ち幅跳びの瞬発力が向上しており、縄跳び用のジャンピングボードや休み時間の取組の成果と考えられる。一方で、20mシャトルランの持久力とソフトボール投げ、上体起こしの筋力に課題が見られる。</p> | |
| 運動・スポーツへの意識、運動習慣 | <p>○「運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることが好きですか」と回答する子どもの割合。</p> <p>男子 当てはまる:95.8% 当てはまらない:4.2%</p> <p>女子 当てはまる:84.4% 当てはまらない:26.4%</p> <p>女子の割合が全国平均よりも下回っている。</p> <p>○「1週間の総運動時間」の割合。</p> <p>男子 420分以上47.9%、60分~420分未満42.2% 1分~60分未満4.5%、0分5.3%</p> <p>女子 420分以上26.4%、60分~420分未満56.4% 1分~60分未満8.6%、0分8.7%</p> | <p>体育の授業が楽しいと感じている児童は、男子では増加傾向だが、女子で減少傾向となっている。そのため、児童が楽しいと感じることができるような「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実が求められる。また、男女とも「420分以上」の割合は減少し、「60分未満」の割合は増加傾向していることから、様々な運動機会の創出を図り、運動習慣の改善に取り組む必要がある。</p> | |
| 三つの取組 | <p>① 体育・保健等の授業の充実</p> | <p>② 授業以外で子どもの運動機会を創出する取組</p> | <p>③ 健康に関する指導の充実</p> |
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 体づくり運動の「多様な動きをつくる運動遊び」や「多様な動きをつくる運動」、「体の動きを高める運動」において、動物歩きや手押し車、長なわや短なわを用いた運動に力点を置き、年間を通して取り組む ・ プロポーザル担当教諭によるサポートで、用具やラインを整え、児童の活動時間を保証することで授業を充実させる。 ・ 体育の単元をスポーツデーに関連付けて、自分の目標に向かい主体的に参加し、運動に親しみ、身体を動かす楽しさを実感できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動機会の充実を図るために、ドッジボールコート、ジャンピングボード、ボール投げ用のカラーボールを常設するなど、学校内外における環境整備の推進を図る。 ・ 「なわとびデー」を設定したり、がんばりカードを活用したりして日常的に運動能力の向上を目指す。 ・ 児童委員会と連携し、休み時間に「てつぱくパーク」を実施し、多様な運動に取り組む。 ・ 10月にはマット週間、12月には跳び箱週間を設定する。道具を体育館に出しておくので準備と片付けの時間が短縮され、運動時間を確保することができる。休み時間も活動することで技能向上を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 給食時間の日常的な食指導と食育月間の特設的な食指導を行う。 ・ 子どもが「運動」、「食事」、「睡眠」の大切さを理解し実践していく指導の充実と家庭との連携に努める。 ・ 感染症予防や性に関する指導(命を大切に学習)の充実。 <p>以上の3つの観点について、教科横断的に年間を通して計画的に取り組む。</p> |
| 検証の方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の活用 ・ 学校独自の児童アンケートや保護者アンケート等の活用 ・ 学校評議員・学校関係者評価委員会・学校評価(児童・保護者・教職員)等の活用 | | |